

質疑応答書

質疑のありました項目への回答を次のとおりお知らせします。

質問年月日 令和 7 年 9 月 1 日

工事（業務）名	中の沢水道施設整備工事(その 2)
質 問	回 答
1. P.21 8 項目目の土工費 本管 2-2（第 2 減圧弁室～E P）で土留工 H=2.5m が計上されていますが、軽量矢板損料が計上されていません。見落としでしょうか？ 2. P.28 8 項目目の労務費 給水の給水は本管の間違いでよろしいでしょうか？また、2 行下のポリエチレン管接手工 $\phi 30$ 56.1 口は、ポリエチレン管布設（人力）$\phi 30$ 58.1m の間違いとみてよろしいでしょうか？ 3. 各土工費の中で、発生土での埋戻がみられていますが仮置きに関する項目がありません。仮置き場所にダンプで運搬して配管施工後、埋戻の為に運搬して使用する場合、その費用内訳及び、仮置き場の指定は残土処分場を利用すると考えてよろしいでしょうかご指示お願いいたします。また、発生土運搬を行わない場合は、掘削箇所の直近への仮置きという施工方法になりますが、養生及び路面清掃は必要ないでしょうか。 4. P.26, 33 の既設管撤去 2-2 2-3 について撤去管の運搬費が計上されていないようですが、見落としでしょうか？他の項目と併せての運搬になるのでしょうか？	1. 矢板の損料は、その 2 工区で一番長い箇所の矢板長を軽量鋼矢板損料にで計上しております。 H=2.5m L=延長 10.48m 設計内訳 P-12 【矢板枚数 84 枚 重量 0.0148t/m】 ※矢板 H=2.5m は本管の 10.48m を供用します H=2.0m L=延長 3.19m 設計内訳 P-12 【矢板枚数 26 枚 重量 0.0148t/m】 ※参考として土留工については 【②-1】本管矢板 H=2.5m L=7.8m 設計内訳 P-7 (3.9m 不断水+3.9m 不断水) 給水部の H=2.5m L=6.5m 設計内訳 P-11 (3.35m+3.13m=6.48m) 【②-2】本管矢板 H=2.5m L=14.4m 設計内訳 P-21 10.48m(本管)+3.9m(不断水)=14.38m(14.4m) 【②-1】給水部の H=2.0m L=3.19m(3.2m) 設計内訳 P-11 2. ご指摘の通りです。修正いたします。 3. 捨土置き場に仮置土する方法も検討しましたが、仮置き土する作業手間と運搬時間を要することや、工事作業の短縮することを視野に入れ、また、当該地区は交通量も少ない地域であり工事中は交通誘導員を配置し、十分に安全性が確保できることから検討した結果、バックホウの横にダンプを配置し、掘削をした土

	を積込み、その後は必要となる埋戻(現場発生土)を施した後、残りの分を残土処理として計上させて頂きました。大変ごお手数をおかけしますが、どうぞ宜しくお願いいたします。 4. ご指摘の通り、既設管撤去については、撤去管②-1の撤去管運搬費に一括計上させて頂きました。詳細工事内訳 P-15
回答年月日	令和7年9月4日